

台紙について

全判の色画用紙（NT ラシャ（ミューズコットン））1枚半（～2枚）を台紙にし、その上に図面やテキストをレイアウトします。今回は中厚手（50 g）のトレーシングペーパーを直接貼るので、台紙の色は薄めが使いやすいでしょう。台紙の色が出過ぎて見えにくい場合は、トレペか、白紙を下に重ねて貼ること。NT ラシャは、画材屋で1枚200円程度で売っているので、各自で購入すること。

全体のレイアウトについて

平面図や立断面図以外に、コンセプトを表現する図や文章、敷地の広域的な位置づけがわかる図等を、必要に応じてレイアウトすること。

空間の完成イメージについて

コンセプトをもっとも表現している空間を視覚的に表現すること。視覚的表現の手段としては、イメージスケッチ、パース、合成画像、模型写真、CG等が考えられる。

模型について

模型を作成して、空間の完成イメージを説明すること。

発表について

発表時間は1人10分程度とします。コンセプトとデザインについて、図面と模型を使いながら説明すること。

造園学実習 1 予定 (H19年度)

テーマ	授業	宿題
1 ランドスケープデザインとは、今年度の課題について	ガイダンス、ランドスケープ入門、クイックスケッチ、製図の方法	有名デザイナーの図面のトレース
2 敷地調査	敷地調査、敷地分析結果の空間的表現	敷地分析の結果のまとめ(様式自由)
3 空間の多様性	デザインサーベイ(北山エリア)	
4 空間の多様性	デザインサーベイ(新風館、京都駅ビル)	
5 空間の分析とコンセプトづくり	クイックスケッチ、コンセプトづくり	コンセプト(案)(文字とイメージにより表現すること。)
6 コンセプトの空間化とデザインの検証	クイックスケッチ、模型の作製方法、desk crit	平面図とスタディ模型作製
7 コンセプトの空間化とデザインの検証	クイックスケッチ、desk crit	平面図とスタディ模型作製
8 中間発表会	平面図とスタディ模型を用いた発表、改善点の洗い出し	
9 デザインの精製(refinement)	クイックスケッチ、desk crit	デザインの精製
10 デザインの精製(refinement)	クイックスケッチ、desk crit	デザインの精製
11 デザインの精製(refinement)	クイックスケッチ、空間イメージの伝え方、desk crit	デザインの精製 パース練習課題
12 最終成果物のチェック	クイックスケッチ、desk crit	最終成果物準備
13 最終成果物のチェック	desk crit	最終成果物準備
14 最終発表会		
15 最終成果物の記録	デジタルカメラによる記録	

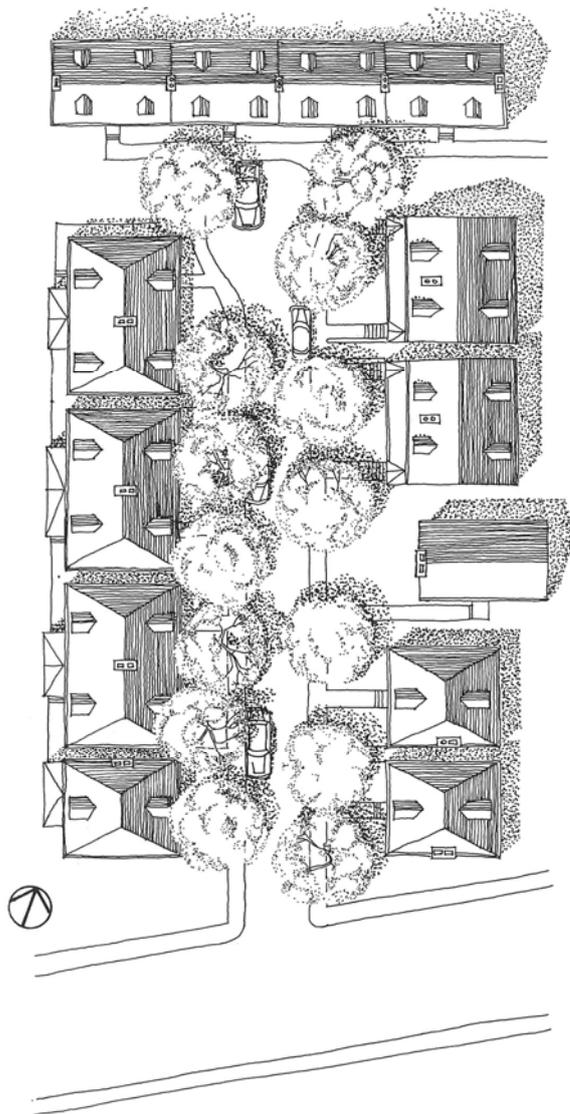
■自分で購入するもの

スケッチブック、ドローイングペン、カッターナイフ、大きめの三角定規2つセット、ドラフトテープ、色鉛筆以外の彩色道具、模型材料

■大学で用意するもの

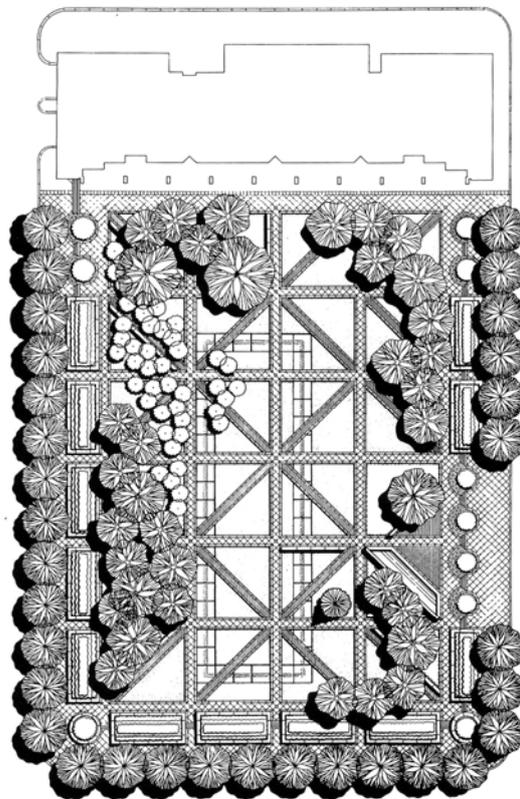
トレーシングペーパー、色鉛筆、パソコン、プリンター

2. Allan Jacobs による Roslyn Place という街路の平面図²⁾



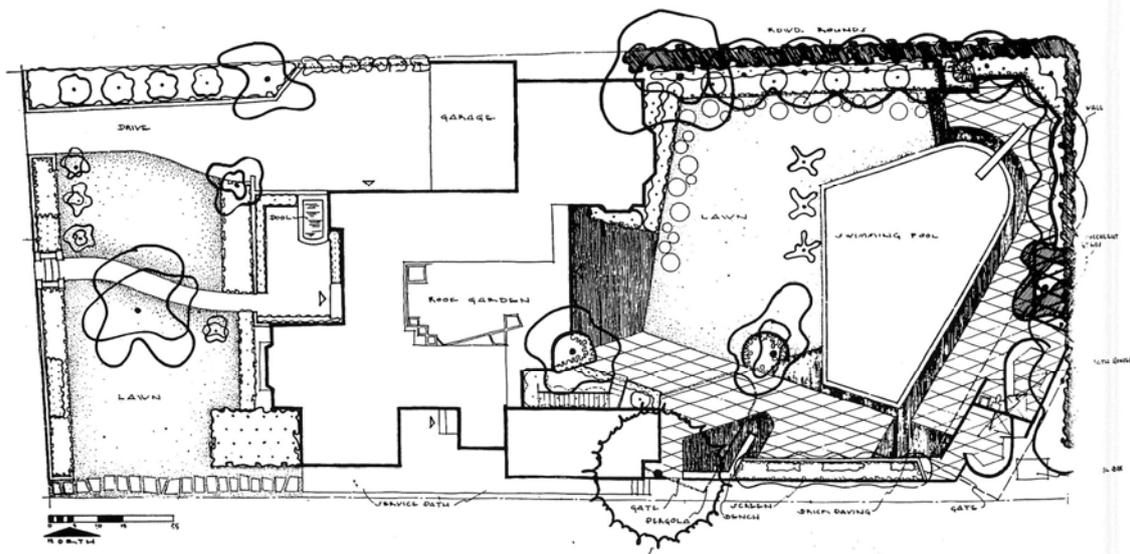
優しい雰囲気。樹木や陰影の描き方が秀逸である。

力強くて均質な線や塗りが特長。
樹木の下は見えない。



3. Peter Walker による Burnett Park の平面図³⁾

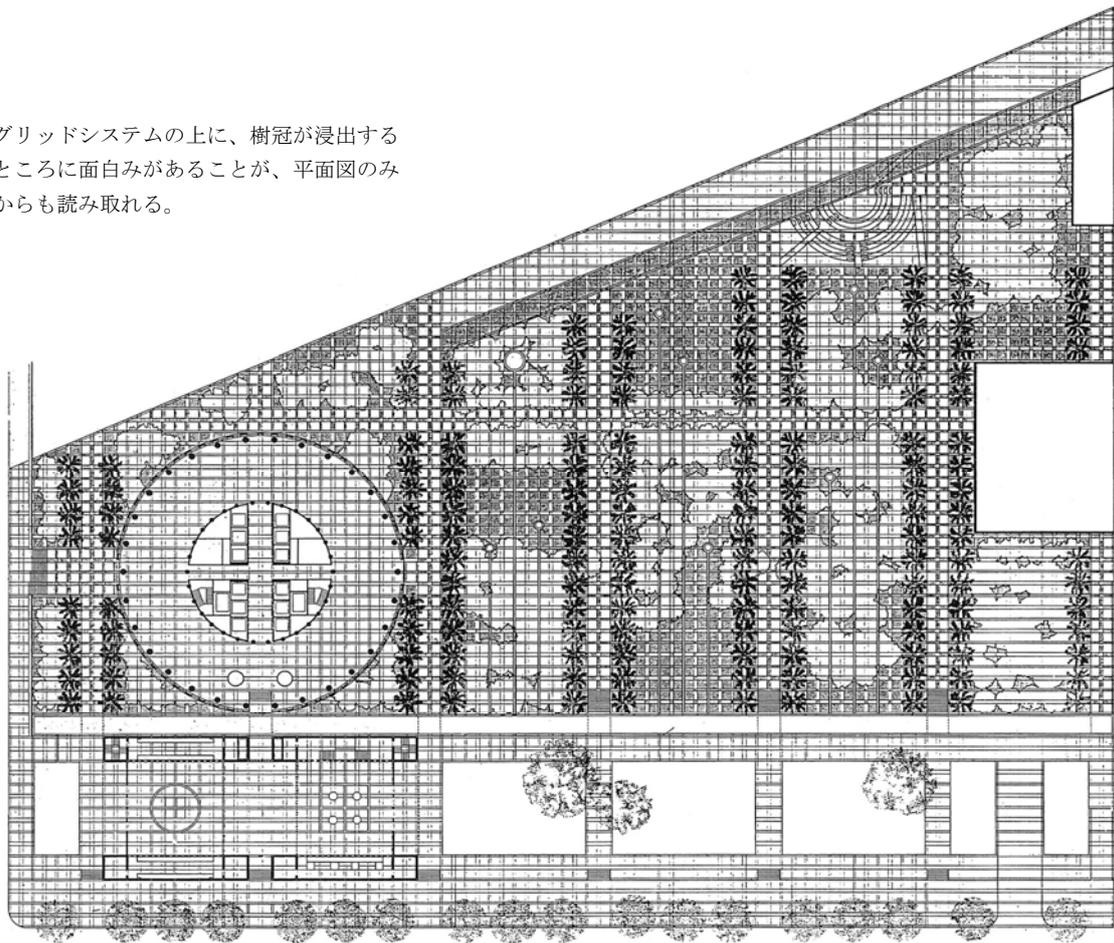
4. Garrett Eckbo による Beverly Hills のプールつき庭園の平面図⁴⁾



さまざまな太さの線やフリーハンドの曲線を巧みに利用し、芸術的な雰囲気醸し出している。樹木の個性がわかる表現である。

5. Dan Kiley による North Carolina National Bank の平面図⁵⁾

グリッドシステムの上に、樹冠が浸出するところに面白みがあることが、平面図のみからも読み取れる。



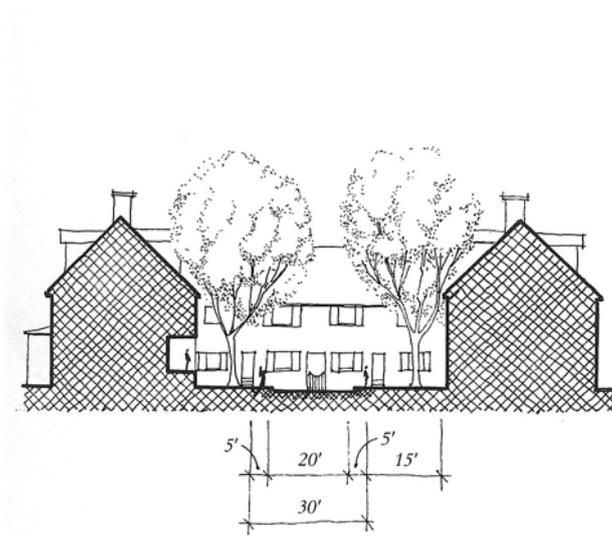
立断面図

立断面図は、平面図上の2点を結ぶラインで地表を切断し、横から眺めた図である。断面図のように切断面における地形、段差、壁、天井、樹冠等の高さの関係をわかりやすく表現できる他、立面図のように後方に立つ物体のデザインも同時に表現できるところに特長がある。

立断面図には人を描き入れるとスケール感が出て、わかりやすい。また、空や地面も描き込むとリアリティが出る。

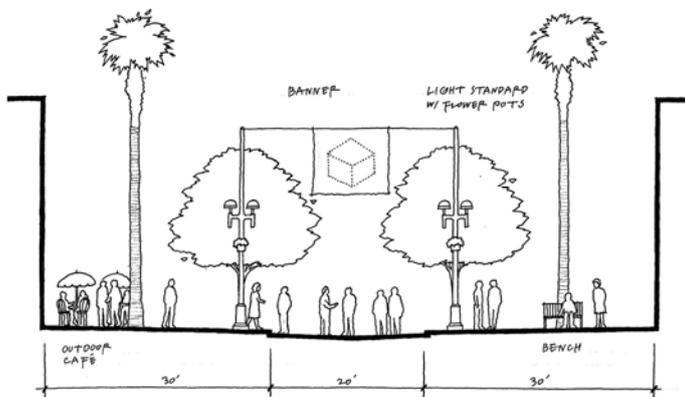
平面図と同様に、縮尺は必須である。どこの立断面図であるかわかりにくい場合は、平面図上に切断ラインを示す2点と、どちら向きに眺めた図であるのかを表す矢印を描き入れておく。

1. Allan Jacobs による Roslyn Place の立断面図⁶⁾



街路空間の調査であったため、建物内は省略されている。
しかし、建物と外部空間の関係が重要であるならば、建物内の様子も描くのが良い。何が必要な情報であるのかを常に考えること。

2. Clare Cooper Marcus による街路の立断面図⁷⁾



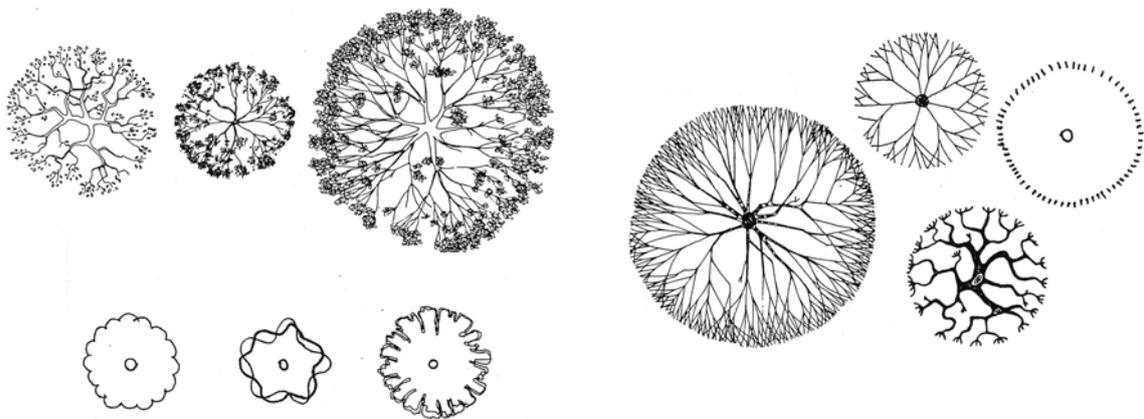
人物等を描き入れると、空間における行為や雰囲気がよくわかる。

表現技法について

以上の図を見れば、筆記用具、線の太さや濃さ、定規を使うかフリーハンドで描くか等の違いが劇的な違いを生むことがわかるであろう。プレゼンテーションでは、図面の印象も非常に重要であるので、どのような表現をとるのかを、コンセプト（デザインのテーマ）にあわせて考えておく必要がある。

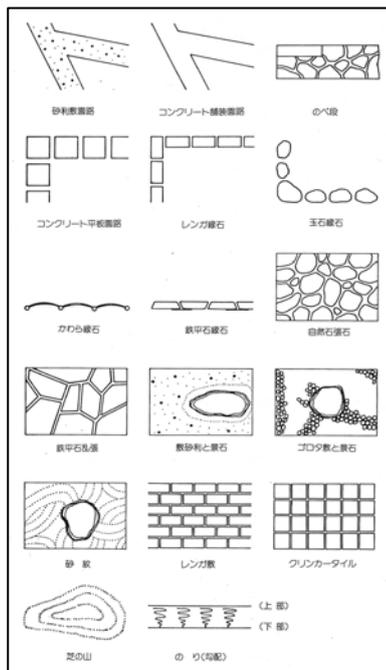
まずは、平面図上で樹木や地表面の描き方にどのようなバリエーションがあるのかを以下に示すことにする。ただし、ここに紹介するものはかなりオーソドックスであるので、前掲の巨匠達の平面図も参考にすること。

1. 平面図上の樹木⁸⁾



樹冠の大きさと樹幹の位置、木の特徴がわかるような表現であれば自由に描いてよい。また、木のマッサ（かたまり）が重要な場合は、樹木群として樹冠の輪郭線だけを描いてもよい。低木の場合はマッサとして樹冠の輪郭線だけが示されることが多い。

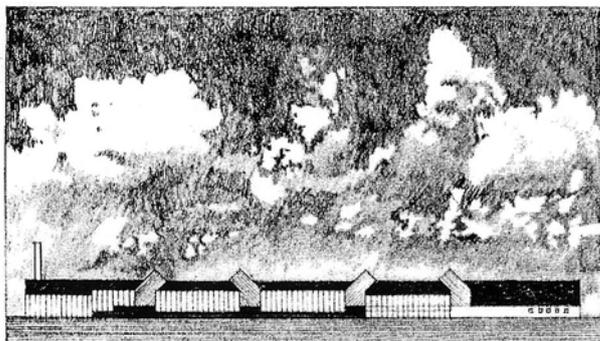
2. 平面図上の地表面⁹⁾



右に示すようなテクスチャ（肌理）により地表面を表現しておけば、あとは簡単な色付けだけで図面を完成させることができる。Eckbo の図面の芝生地のように、面が広がる場合には、輪郭部分だけのテクスチャを入念に描けばよい。

3. 立断面図の空¹⁰⁾

空を描くことで、リアリティが生まれる。また、空間のイメージも伝えやすい。

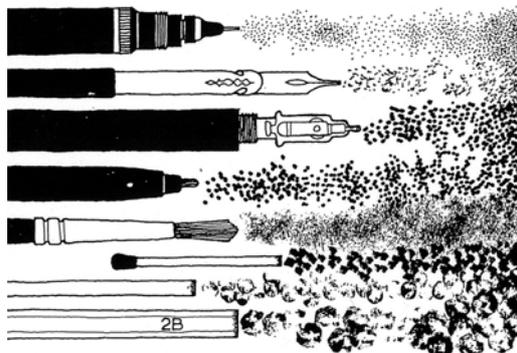


雑誌に載っている写真等から適当なものを見つけて、鉛筆で描けばよい。

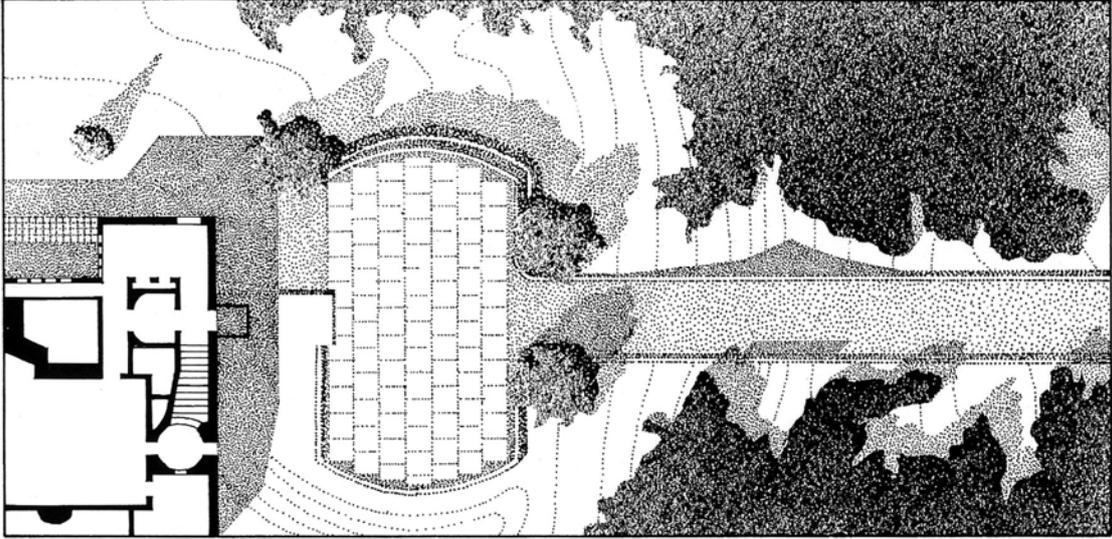


このように定規を使って描けば整った空を描くことができる。また、斜めにフリーハンドで空の色を入れてもよい。経験的には青、紫、黄等を混色するとよい。夕景や夜景もたいへん効果的である。

4. 点描の技法¹¹⁾

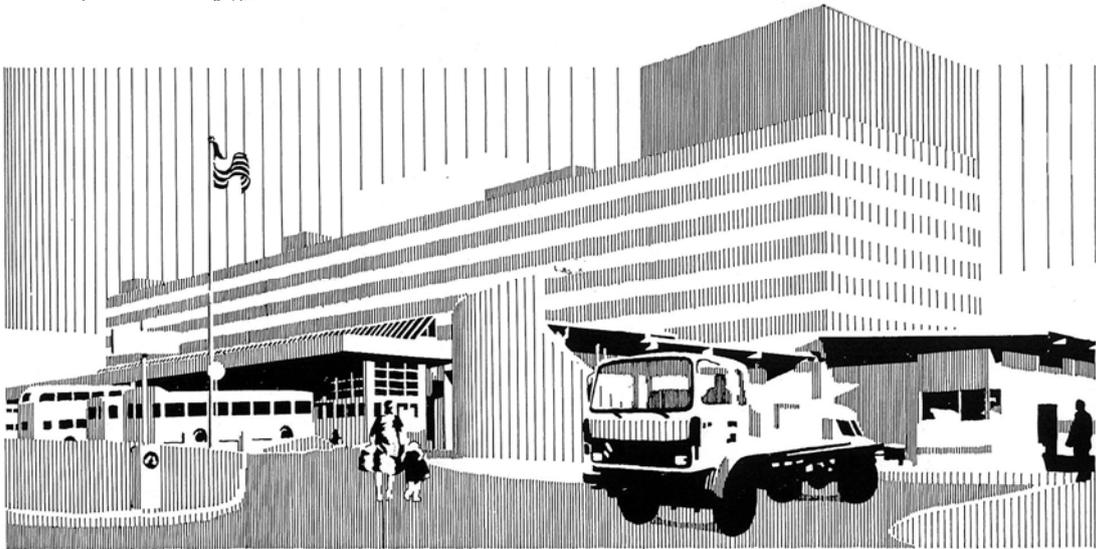


ゆっくりと描けるので失敗の少ない方法である。また、さまざまな描き方が可能である。

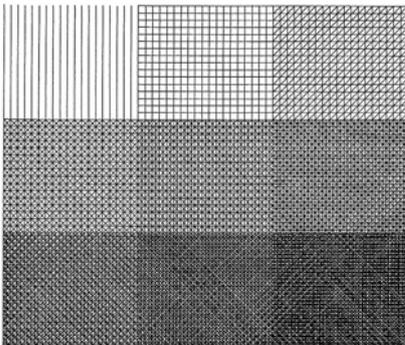


点によって描かれた図面には、透明感がある。

5. ハッチングの技法¹²⁾

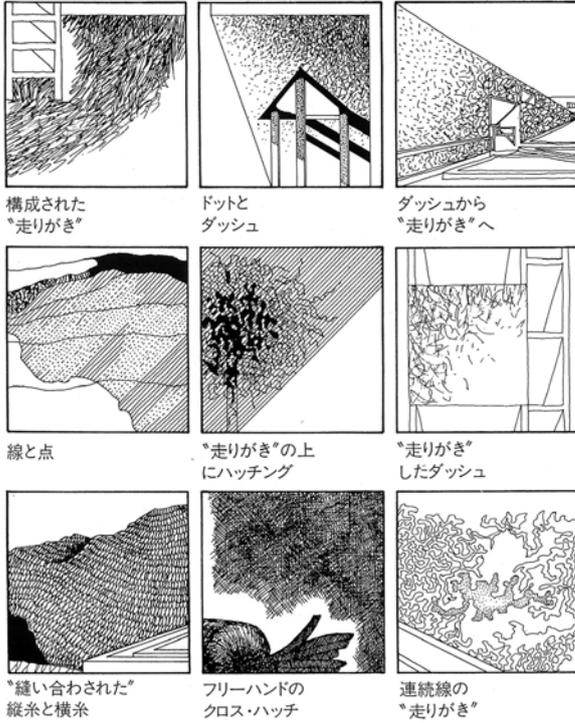


垂直の線は、製図台の平行定規に三角定規をあてながら描くと簡単である。根気強さがあれば、比較的簡単にこのように芸術的な図面（これはパース）を描くことができる。



ハッチングの密度により濃淡をつけることができる。

6. フリーハンドによるハッチングの技法¹³⁾



フリーハンドによるハッチングのバリエーションを見ておこう。
自然の素材を表現するのに適した技法である。

コンクリート

レンガ



石

木

植物の葉を描くには適度な抽象が必要である。
雰囲気伝わればよい。

引用文献

- 1) 永嶋正信 (1981) 造園製図実習. 加島書店, p. 130.
- 2) Jacobs, A.B. (1993) Great streets. MIT Press, p. 16.
- 3) Walker, P. (1993) The practice of landscape architecture in the postwar United States. In: Modern landscape architecture: a critical review (ed. Treib, M.). MIT Press, p. 258.
- 4) Rainey, R.M. (1993) "Organic form in the humanized landscape" : Garrett Eckbo' s *Landscape for Living*. In: Modern landscape architecture: a critical review (ed. Treib, M.). MIT Press, p. 198.
- 5) Treib, M. (1993) Axioms for a modern landscape architecture. In: Modern landscape architecture: a critical review (ed. Treib, M.). MIT Press, p. 46.
- 6) 前掲書 2) , p. 16.
- 7) Marcus, C.C., Francis, C. and Russell, R. (1998) Urban plazas. In: People places (eds. Marcus, C.C. and Francis C.). John Wiley and Sons, Inc., p. 73.
- 8) 前掲書 1) , p. 79.
- 9) 湯瀬猛 (1985) だれにもわかる造園図面の見方・描き方. オーム社, p. 69.
- 10) Porter, T. and Goodman, S. (1982) 建築プレゼンテーション・マニュアル 2. 集文社, p. 76.
- 11) 同上書, p. 51.
- 12) 同上書, pp. 52-53.
- 13) 同上書, p. 54.